

## 春シラス漁の結果と秋シラス漁の見通し

### (1) 春シラス漁 (2~7 月) の結果

今期の春シラス漁の主要 5 港(大津, 久慈, 大洗, 鹿島, 波崎)合計水揚量は, 速報値で 1,549 トン(昨年 1,607 トン, 過去 5 年平均 1,792 トン)となり, 好漁(1,300 トン以上)となりました(図 1)。

次に 4 月以降の 1 日 1 隻あたりの漁獲量(kg/日/隻)の推移を示しました(図 2)。5 月までの漁獲量は平年と比べ極めて少ない状況でしたが, その後, 6 月 17 日から漁獲量が急増し, 好漁が続きました。また, マイワシシラスの割合は 4 月に高く, その後はカタクチシラスが主体となりました。

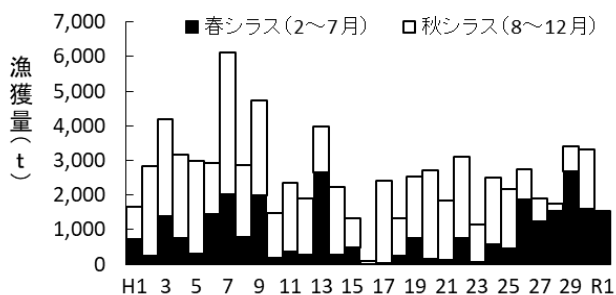


図 1: シラス漁獲量の推移

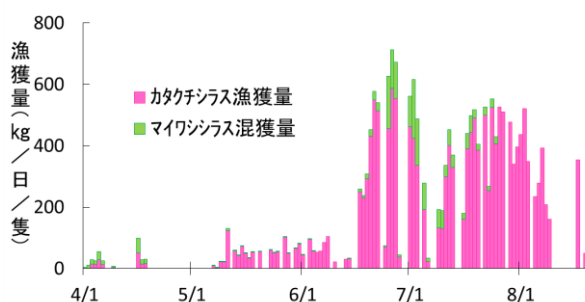


図 2: シラス漁獲量 (CPUE) の推移 (8/21 まで)

### (2) 秋シラス漁 (8~12 月) の見通し

#### ①カタクチイワシ親魚の資源状況・卵稚仔の分布状況

今後漁獲されるシラスの親魚となるカタクチイワシ資源は, 岩手~千葉の漁獲状況から低水準と考えられます。

また, 7/2~7/3 に本県沖(会瀬~犬吠埼)において実施した卵稚仔採集調査では, カタクチイワシ卵(0.8 粒/曳網), 仔魚(2.2 尾/曳網)ともに例年を下回る採集数でした。

#### ②海況の現況と見通し

7 月の海洋観測調査では沿岸水温が平年より高い傾向にありました。現在, 黒潮は犬吠埼沖を北東へ流去しており, 沿岸域の表層水温は「平年並み」となっています。今後, 沿岸域の水温は表層で「平年並み」, 下層で「やや低めから平年並み」で推移すると予測されています(詳細は「水産の窓令和元年-No. 11」)。

#### ③まとめ

8 月は 9 日までに県内全体で約 300 トンの漁獲がありましたが, 盆明け 19 日にはシラスの反応は薄れ, 漁獲量が激減しました(図 2)。

7 月の本県沖のカタクチイワシ卵採集数が少ないと, 8~9 月の漁獲量も少ない傾向があります(図 3)。また, 過去 5 年平均の 8~9 月合計漁獲量は 689 トン(30~1,424 トン)であるのに対し, 10~12 月では 143 トン(67~295 トン)となっており, 親資源が低下した近年において 10 月以降のシラス漁は低調となる傾向にあります。

なお, 春シラスは水温が高めに推移すると漁獲量が増加する傾向にありますが, 秋シラスでは 7 月の沿岸水温が高いと 8~9 月の漁獲量が少なくなる年も見られます。

以上のことから 今年の秋シラス漁は「不漁水準(1,000 トン未満)」になるものと考えられます。

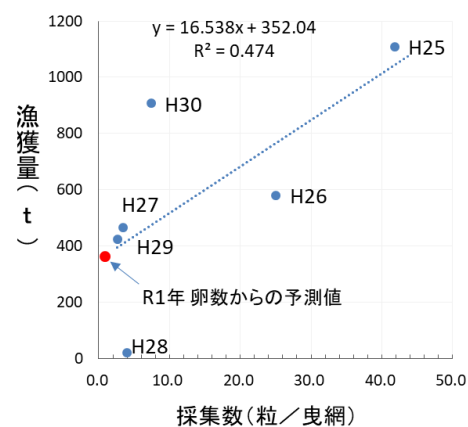


図 3: 7 月卵採集数と大洗, 鹿島の 8~9 月合計漁獲量との関係 (H25~H30 年)

(回遊性資源部)

[次号予告] R1.9.6 発行の水産の窓は, 「9 月の海洋観測の結果」を予定しています。